

西川町を元気にする隊  
～GEN～

GEN企画 若者交流イベント 西川夏の陣2013

# 西川町 議会だより

若者交流イベント「西川夏の陣2013」

「若い人」シリーズ  
「GEN」のみなさん  
活動紹介は裏表紙にあります。



2014.1.15 87号  
発行 山形県西川町議会

新年のあいさつ	2頁
12月定例会	3
一般質問	8
行政視察報告	12
行政評価	14
議会の動き	15

年頭のあいさつ  
**総合計画が絵に描いた餅にならないように**  
 議長 井場 榮治

昨年は7月の集中豪雨で大きな土砂災害が発生しましたが、早期に復旧が図られるよう議会としても努めてまいりました。

12月の定例会では、今後10年間の町づくりを目指す第6次総合計画が町から提案され、本会議で質疑し議決いたしました。議会は、住民を代表する機関でありますので、町民の皆さんの目線に立ってその役割を果たしていく所存です。計画は実行してこそ実現するものであり、絵に描いた餅であっては何の意味がありません。実行する確固たる熱意がなければなりません。3月の定例会までに実施計画、財政計画が示されますが、今この町で一番重要で必要なことは何か、それをどのように実行していくのかを議会としてしっかりと監視してまいります。

# 12月定例会 西川町初の 産業建設・総務厚生 常任委員長による代表質問

## 第6次総合計画について

西川町議会では、平成25年3月の定例会で議会基本条例を制定し、町の総合計画基本構想と基本計画を議決事項として定めしました。

今回提出された第6次総合計画は、今後10年間の町の方向性を決定する重要な案件です。議会では、常任委員会と全員協議会で議論を重ね、総意をまとめ、県内の町村議会でも極めて珍しく、西川町初となる産業建設・総務厚生両常任委員長の代表による質問を行いました。

しかしながら、町長は、第6次総合計画は町づくりの基本的方向性を示めたものであり、具体的実施事業内容までは示していないとし、4月からの事業への取組みについては、明確な答弁を得ることができませんでした。

議会としては、確実に速やかに計画が推進されるよう、一層強く働きかけてまいります。

質疑内容は次ページのとおりです。

平成25年12月定例会は、12月3日から6日までの4日間開催されました。町からは第6次西川町総合計画策定、人権擁護委員の推薦、4件の条例案件、一般会計と特別会計の6件の補正予算案件が提出されました。議会からは免税軽油制度の継続を求める意見書を提出し、慎重に審議した結果、すべて全員賛成で可決しました。

一般質問は7人の議員が8件について行いました。

あけまして  
 おめでとーうございませす

今年も議会の持っている監視・審査機能を十分に発揮するため絶えず町民の皆さまと意見交換し住んで良かったといわれる町となるよう尚一層努力してまいりますので皆さまの更なる御支援御協力の程お願い申し上げます



# 第6次 西川町総合計画 全員賛成で可決

## 第6次総合計画の基本構想

- まちづくり テーマ・合言葉  
キリリ☆月山 健康 元気 にしかわ
- 3つの町民運動
    1. みんなが主役運動  
一人ひとりが地域づくり、まちづくりに参画を「まちづくり条例の設定」
    2. 町自慢運動  
西川町で暮らすことの優位性、楽しさを確認「西川版幸福指標の創設」
    3. 現役延長運動  
町全体の現役世代を広めて活力の維持を「現役80代宣言！」
  - 基本目標
    1. 互いに強し健やかに安心してくらせるまちづくり  
「健やかな体づくりと安全安心持続できる地域環境整備」
    2. 総合産業が織りなす活力と賑わいと雇用をつくるまちづくり  
「総合産業の基盤整備と健康づくり産業の創出」
    3. 住み慣れた地域で心豊かな人と文化を育むまちづくり  
「地域の宝発掘・誇りの醸成と日本の自然教育・学習先進地づくり」
    4. 子どもや若者の笑顔があふれ女性がいきいきするまちづくり  
「子ども子育て支援と次世代育成の拡充、また女性が活躍できる場の整備」
    5. 財源確保と行政改革、情報体制が整備されたまちづくり  
「まちづくりの実行力の整備と効果的な情報発信」

## 産業建設 常任委員会

質問者 委員長 伊藤哲治

**1. 町長の思いは**  
計画書の全体的文章表現は素晴らしい心地よく響くが、何がしたいのか伝わらない。何を重点的にやっていくのか。

## 2. 産業振興と所得向上

総合産業とは何を指すのか、町民所得向上は何を核として施策を実施するのか、産業振興についての記述が弱い。計画をきちんと立てるべきだ。

## 3. 町のキャッチフレーズと雪対策

「雪と緑と太陽の町」のキャッチフレーズは、自然エネルギーの活用が叫ばれている今こそ大いにPRすべきではないのか。  
快適な雪国の生活を営むために、コンサルティング等も導入し、新たな発想に基づき取り組みむべきだ。

きた。利雪やダムの水の活用などは町だけでなく、国・県を巻き込んで大胆に進めるべきと思うが。

## 4. 森林の活用

農林業の振興を謳っているが、町の95%を占める森林の活用をどう進めて行くかが見えない。林業を生業とする施策をどう構築していくのか。

## 5. 「実践」の時は

計画では、「これまでと違ったものの捉え方が必要」としているが、「町づくりデザインをどうするか」という視点、どの様な工程を組むかが大切だ。計画の随所に「学び」が位置づけられているが、いま町に必要なのは確実な「実践」だと思えるがどうか。



▲集落の除雪作業

## 回答 町長

**1. 町長の思いは**  
今後10年間のビジョンと町づくりの基本的方向性を示したものであり、具体的実施事業内容までは示していない。

## 2. 産業振興と所得向上

各産業が具体的に連携する「健康産業」と「再生エネルギー産業」を興している。地域資源活用型産業振興が特色だ。

## 3. 町のキャッチフレーズと雪対策

「雪と緑と太陽の町」は指摘のとおり自然再生エネルギーに適したものと考える。雪対策は根本的重要施策と考えている。地域に応じた対策が必要だ。豪雪自治体同士の連絡協議会の設置を働きかけ、県や国に支援策を求めていく。

## 4. 森林の活用

「森林の活用」は重点的に取り扱っていく考えだ。木質バイオマスエネルギー産業の開発を掲げている。森林資源を活用した「健康づくり産業」を興そうとしている。さらに、ブナの原生林を活用して「日本の自然教育・学習先進地づくり」を行なっていく。

## 5. 「実践」の時

町民の方々が地元の資源や価値観について学んでいくことや「自然教育・学習先進地づくり」の分野で「学び」の表現があるが、

## 総務厚生 常任委員会

質問者 委員長 佐藤耕一

## 1. 人口問題

人口は町づくりの基盤だ。計画では、町民運動の一つに「現役80代宣言」を掲げているが、町づくりには若者定住が重要だ。若者に対する施策は示されているが、若者の定住促進のために、どう施策を展開していくのか。

## 2. 小中一貫教育のあり方

町は校舎が別々の分離型で小中一貫教育を実施しているが、平成25年度の出生者見込みは19人であり、10年後には1学級となる。長野県信濃町は、校舎一体型の一貫教育で大きな教育効果を上げている。本町においても、校舎一体型の教育について方向性を明確にすべき

ではないか。

## 3. 地域組織の再編

「持続するコミュニティ機能の整備」では、行政区と財産区のあり方や町内会の統合などを重要課題とし、「(仮称)地域づくり協議会」や「(仮称)地域づくりセンター」と記載されているが、内容が不明確だ。組織再編は地域事情もあり

## 4. 健全財政の維持

町民の不安の一つに財政状況がある。町の財政は健全だというが起債残高は多い。人口減少、高齢化の進展で税収が少なくなる中、具体的に自主財源をどのように確保していくのか。



▲子育て支援センターのクリスマスパーティー

# 補正予算

一般会計は、既定の予算額に1,382万円を追加し48億8,011万円に、国民健康保険特別会計（大井沢歯科診療所）は4万円を追加し368万円に、簡易水道特別会計は650万円を追加し8,467万円に、介護保険特別会計は146万円を追加し6億8,704万円に、宅地造成事業特別会計は38万円を追加し6,544万円に。

（全員賛成）

## 主な補正予算

（万円未満四捨五入）

<b>■一般会計</b>	
光ファイバー工事請負費	152万円
除雪ヘルパー派遣事業補助金	261万円
除雪機修繕料	420万円
住宅建築支援補助金	800万円
総合交流促進センター他管理委託料	381万円
子育て支援医療給付費	152万円
小山鉱山中和処理維持管理委託料	124万円
薪ストーブ等利用拡大支援事業補助金	10万円
<b>■国民健康保険特別会計（大井沢歯科診療所）</b>	
歯科診療台修繕費	4万円
<b>■簡易水道特別会計</b>	
桧原橋・佐土橋配水管添架工事請負費	650万円
<b>■介護保険特別会計</b>	
国庫負担金償還金	146万円
<b>■宅地造成事業特別会計</b>	
テレビ受信施設新設工事	38万円

**問** 住宅建築支援の追加予算があったが、実績を教えてほしい。

**答** 現在の予算2,200万円に対して、これまでに46軒の申込みがあり、金額にして2,700万円ほどの補助金支出が必要。3月までにはさらに申込みが増える想定されることから予算総額を3,000万円にするため



▲利用者が増えている住宅建築支援事業

## 質疑

に、800万円の補正を要求した。

## 回答 町長

### 1. 人口問題

「現役80代宣言」は高齢者対策だけではない。健康で元気に生涯を送れるという実践例を示すことは、若者が安心してこの町に住み続ける意欲につながると思っている。

婚活や子育て支援はもちろんのこと、就業支援、さらには若者が町に住むことを誇れるように、日本の中における西川町の優位性を示していく。

### 2. 小中一貫教育のあり方

現在の施設分離型における西川町らしい一貫教育のあり方を追求し、確立して行く。

### 3. 地域組織の再編

地域の条件が違うので、一律にはできないと思う。じっくりと合意を得ながら進めて行く。

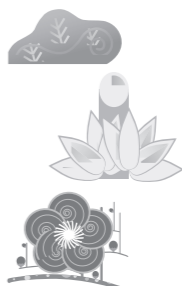
「（仮称）地域づくり推進協議会」と「（仮称）地域づくりセンター」は、現段階ではイメージであり、今後、具体的な作業の中で明確にしていく。

### 4. 健全財政の維持

起債は計画的な発行に努め、

後年度負担を考慮した財政運営を行なっていく。

自主財源の確保対策は、所得向上と収納率の確保を図る必要がある。計画に基づき、町民の所得を向上させるための地域資源を活用した産業振興に取り組んでいく。



## 条例の制定

### 子ども・子育て会議 条例の設定

国では、急速な少子化の進行や保育待機児童など、子どもをめぐる課題を解消するために、子ども・子育て支援を総合的に推進することを目的とした「子ども・子育て新制度」が平成27年度からスタートします。これを受けて町では新たに条例を制定しました。

## 地方税法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の設定

町の税外収入金、介護保険及び後期高齢者医療の延滞金の徴収に関して改正するための条例を制定しました。

## 町税条例の一部を改正する条例の制定

## 国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定

地方税法等の一部改正に伴い、関係規定を改正しました。

## 人事

### ◎人権擁護委員候補者の推薦に同意

- 志田浩一さん（大井沢）
- 太田敏郎さん（吉川）

（全て全員賛成）

## 請願

### 意見書

#### ☆免税軽油制度の継続を求める意見書

道路を走らない機械の動力源に使用する軽油について、軽油税を免除する免税軽油制度は、観光産業の重要な柱であるスキー場産業や農林業の発展に貢献してきたが、平成27年3月末で廃止される状況にあるので、観光産業等を衰退させることのないよう、制度の継続を求める意見書。

提出先 関係大臣 衆参議長

（全員賛成）



### 10月22日

#### 議員研修を実施

新潟県立大学准教授の田口一博氏を講師に迎え、議会基本条例に基づいた議会活動のあり方について研修しました。

## 第4回臨時会

10月10日開催

災害復旧に関する補正予算が提出され全員賛成で可決しました。

一般会計は、既定の予算に1億9,364万1千円を追加して48億6,629万4千円に。

## 質疑

**問** 災害補助申請は見積書添付となっているが、全部見積書は出揃っているのか。

**答** 出していない地区もあるが、想定の上プラスして補正予算を組んだ。

**問** 公共土木災害、町単独災害、地元発注の災害に復旧の優先順位はあるのか。平等に進めてほしい。

**答** 地元発注のものは、早急にやるようにお願いしている。業者の方も了解を

## 第5回臨時会

10月18日開催

次の2件が上程され全員賛成で可決しました。

**1** 平成25年度町道梅沢根線あづま橋旧橋撤去工事請負契約の締結について

**2** 町道沢入線道路災害復旧工事請負契約の締結について



宮林 昌弘 議員

## 川の濁り対策 清流寒河江川を取り戻すために

町長 関係機関に原因の把握と対策を要望していく



▲濁りがとれない水ヶ瀬ダム

**問** 清流日本一に認定された寒河江川が、7月豪雨で濁りが長期化している。清流を取り戻す方策はないか。  
① 寒河江川の濁りにより、景観の悪化や村山広域水道、漁協で被害が出ている。水源地の町長としてどう受けとめているか。  
② 寒河江ダムの土砂流入による堆積量や、濁り発生源の調査と対策について、ダム事務所との考えを確認してもらいたい。  
③ 国に対して関係市町と連携し、西川町長が寒河江川クリーンアップ運動を提唱すべきではないのか。

**答** ① 町はこれまでも水にこだわり、村山地区への飲料水を供給する水源として、町を縦貫する寒河江川が清流であることが大きな意味を持つと考えている。  
② 寒河江ダムでは流入した土砂の堆積量の調査や崩れた箇所の把握、土質調査等を行なっているが、長期間の濁りの原因までは確定できていない状況だ。  
③ 寒河江ダム下流の河床の土砂排除は、\*フラッシュ放流等での対応が検討されているので、それらの状況を見ながら町の対応を検討していく。

\*フラッシュ放流「よどみ」等による川の環境を改善するために、ダムに貯めている水を放流すること



佐藤 幸吉 議員

## 地ビール 地ビールを西川町の特産品に

町長 山形県唯一の地ビールとして地域密着度を図る



▲地ビール月山

**問** 地ビールは、町民にとって誇れる商品であり、特産品に成長させることが大切ではないか。そのために、  
① 酒店、旅館、飲食店の連携を得るための会議を開いてはどうか。  
② 物語づくりとして、西川町の大自然の産物であることを売り物にしてはどうか。  
③ 平成26年に町制施行60周年を迎えるにあたって、缶ビールの開発を試みてはどうか。  
④ 地酒、地ビール、地ワイン等、西川産での乾杯条例を制定してはどうか。

**答** ① 町内商店等で意見交換する機会を設ける必要があると考える。  
② 月山自然水を活用していることでPRしている。また、山形県で唯一の地ビールなので、ホップ等の県産原料を活用して物語性、話題性、地域密着度を図っていくことが必要だと思っている。  
③ 缶ビールの自社製造は多額の投資が必要となり、委託製造は地ビール製造の企業秘密を他社に公開してしまうことになるので難しい。お土産品として新たな銘柄を開発することは考えられる。  
④ 商工会等から意見を聞きながら、気運づくりをいかに進めていくか検討したい。

## 一般質問

7人の議員が、次のことについて一般質問を行いました。議会だよりには、1議員1項目のみの掲載となりますので、詳しくは町のホームページの中にある12月定例会録画中継をご覧ください。

- 奥山 敏行 議員 ◆今後の町政運営について
- 宮林 昌弘 議員 ◆「清流・寒河江川」を取り戻すために
- 佐藤 幸吉 議員 ◆地ビールを西川町の特産品に  
◆買い物ができる環境を充実させるために
- 佐藤 耕二 議員 ◆水道石綿管の未更新地域の整備を早急に
- 青山 知教 議員 ◆雇用を考慮しての介護サービス施設について
- 伊藤 哲治 議員 ◆第6次西川町総合計画（案）の基本的考え方について
- 飯野 咲子 議員 ◆人口減少を防止する政策と取り組みについて

## 町づくり 町長は町の将来をどのように見据えているのか

町長 キラリと光り続ける町をめざす



奥山 敏行 議員



▲町のシンボル 月山

**問** 第6次西川町総合計画（案）では、これからの10年間の町づくりのテーマを「キラリ月山・健康元気にしかわ」とし、町民の力と運動で町民自身の心と体・生活・地域・産業経済全般にわたり健康で元気な西川町を目指して行くとしているが、町の将来をどのように見据えているのか。今後ますます町長のリーダーシップと思い切った施策が求められるが、この第6次総合計画の実現に向けて、町長は来期も出馬する意向はあるか。

**答** 町のシンボルである月山の豊かな自然と文化を活かし、町の最大の資源である町民の方々の健康と元気を維持し、誇りと所得を得られるようにしていく。現役80代宣言と女性の力の導入で社会活力を落とさず、継続できる地域組織の工夫を凝らし、人材を育成し、キラリと光り続ける町をめざす。  
来年度が第6次西川町総合計画のスタートの年であり、この計画を推進し、町民の皆さんとともに仕上げることに私の責務であり、投げ出すことは許されないと考え、後援会とも相談し、熟慮し、2期目を目指し出馬することとした。



伊藤 哲治 議員

## 総合計画

# 第6次西川町総合計画(案)の基本的考え方を問う

町長 最大の課題は町を存続させるための定住人口の維持だ



▲西川町総合政策審議会

**問** ① 現在までの第5次総合計画について、成果と課題をどのように認識し、それを第6次西川町総合計画(案)にどう反映していくのか、今後の町づくりにおいて最大の課題は何なのか。

② 経済的側面からの視点が不足している。町民の所得向上をどのように図るのか、何をもちって町民の所得向上を目指すのか。

③ 各地区地域づくりのテーマと6次総合計画の関わりは。

**答** ① 成果は拠点地整備構想の具現化危機管理体制整備、自立と協働の意識醸成で課題は産業振興だ。成果を伸ばし、課題を補いながら政策を継続していく。最大の課題は、町を存続させるための定住人口の維持だ。

② 所得向上のため、農業の6次産業化の推進強化はもちろんのこと、歴史ある出羽三山文化や自然教育先進地を目指す交流産業と一体化し、さらに地域資源活用型再生エネルギー産業を展開する。

③ 毎年、地域づくり計画ヒアリングを実施し、行政施策への反映と各地区による実施事業の支援方法を調整していく。



佐藤 耕二 議員

## 配水管の更新

# 水道石綿管の更新を早急に

町長 予算の範囲内で順次更新を図る



▲大井沢地区の水道管入替え工事

**問** 7月豪雨では大井沢の一部で断水したが、配水管の老朽化なども考えられる。配水管の耐用年数は約40年といわれているが、町の多くの配水管は40年近く経過しており、漏水も多く発生している。特に石綿管は40年以上過ぎていたので更新を早急にしてもらいたい。

**答** 上水道、簡易水道を合わせた水道管の総延長は約114kmあり、このうち石綿セメント管の延長は約12kmだ。布設箇所は大井沢、岩根沢、本道寺、綱取、入間、小沼地区の一部に残っている。今後も耐震化及び漏水防止を図るため、予算の範囲内で順次更新を図っていく。

アスベストの健康への影響については、厚生労働省より、水道管からの経口摂取については極めて小さいと評価されているので、安心して利用してもらいたい。



飯野 咲子 議員

## 若者支援

# 保護者の負担軽減と冬の暮らし対策を

町長 若者定住の観点から課題と捉えている



▲まきストーブ

**問** 第6次総(案)に掲げた人口5千人をキープするために、持続可能な健全財政に取り組む、若い保護者を応援するため、給食費や学年費の保護者負担を軽減し、その分を町が負担することに取り組んでいかか。子育て、住宅支援の充実で、町内の若者の定住や、町外からの転入も期待できるのではないかと。

**答** 保護者の負担軽減は、中学3年までの子育て支援医療や就学援助費補助等を行っている。給食費は学校給食法で、食材費、光熱水道費を保護者が負担することになっているが、町では食材費だけの負担としている。学年費は学校と保護者の話し合いで負担額を決めている。保護者負担の在り方は、若者定住や子育て支援という観点から、第6次総合計画での支援策として今後の課題と捉えている。

低所得高齢者世帯等への冬の支援は、除雪補助の拡大と共に、地域の見守り体制を強化する。まきやペレットストーブ等の普及のため町独自で補助を行なっている。



青山 知教 議員

## 雇用対策

# 民活で介護サービス施設における雇用対策を

町長 国の動向を踏まえながら検討していく



▲デイサービスを利用する皆さん

**問** 介護施設サービスの利用が多岐になると同時に、町外施設の利用者が増加している。町外での利用者を、町内施設で受入れると想定した場合何人ほどの雇用が見込まれるか。全国で42万人の施設入所を待つ高齢者対策として「遠隔入所や移住型特養」の検討が、国で加速している。

**答** 現在の町外の施設サービスの利用者は32名程度なので、入所形態を考慮せずに、その人数を一施設で受け入れた場合を想定すれば、必要な職員数は33名程度と思われる。国では、団塊の世代が75歳になれば、現在より75万人の後期高齢者の増加が見込まれ、特に都市部ではその対策が急務とされている。その中で、特養を地方へと検討されているが高齢者本人の意思が重要であることから、今のところ地方への整備は積極的に推進していない。本町では、国の動向を踏まえながら検討していく。

# 行政視察報告

# 活かそうわが町に

平成25年10月23日(25日)・長野県に行きました

小中一貫教育校の特色は  
一校舎一体型にあり

信濃町の概要  
・人口9千242人  
・世帯数3千431世帯  
・面積149.27km<sup>2</sup>

## 視察内容

### 「信濃町小中一貫教育」

7年余りの準備期間を経て、平成24年4月に5つの小学校と1つの中学校が統合し、開校した。長野県でも前例のない校舎一体型の一貫教育

### 「信濃小中学校」

1・9学年の636人が同一校舎で生活、学習を行い、小学校籍と中学校籍の教職員73人が協働して教育活動をしている。

◆従来の小中6、3制を4、5区分とし、5、6年に教

科担任制を導入し、9か年の連続性のある学びの充実を図り、全教職員が一人ひとりの伸びや良さを常時書き込むことで、個々の記録が累積している。

育てていき、関わりながら学びあう子どもを育てていく」としていた。全国的に6・3・3制を見直す動きがあり、小中一貫教育に取り組み自治体が増えているが、校舎一体型と校舎分離型、子どもたちにとってどちらの教育方法がいいのか、西川町でもさらに検討すべきことと思った。

◆先生と交流を深めたり、気軽にわからないところを聞くことができるように、「ティーチャーズステーション」を設けている。

最後に、中学生が小学生の手を引いて、にこやかに帰っていく姿は非常に印象的だった。

### ☆視察を通しての感想

「9年間を通じて、子どもたちに考える力、根拠や理由を示して表現する力を



▲信濃小中学校 掃除の時間

### ◆小布施景観 まちづくり運動 小布施町の概要

・人口1万1千382人  
・世帯数3千700世帯  
・面積19.07km<sup>2</sup>  
・産業 農業と観光。  
土壌が栗に適しており、栗菓子は観光の目玉であり、600年の歴史がある。他にリンゴ・ブドウといった果樹が特産品

## 視察内容

### ◆まちづくり

指針として「環境デザイン協力基準」を設け、特色を生かした3つの町づくりゾーン「歴史文化ゾーン」「さわやかゾーン」「ふるさとゾーン」の整備計画や「うるおいのある美しいまちづくり条例」の制定により、町並景観の空間づくりを進めている。

特筆すべきは、昭和55年から進めた、個人の庭を一般公開するオープンガーデン

ン推進事業で、中学生から大人まで100人以上の町民をヨーロッパ・カナダ等の海外研修に出し、花づくりの技術、デザイン等に関する情報発信に努め、現在では12軒登録されている。

### ◆産学官の協同による 事業の創出

信州大学地球環境研究室の開所によりバイオマス資源の活用の可能性を探り、再生可能なエネルギーの研究を行なっている。

### ◆人材育成、若者定住

法政大学小布施町地域創造研究所の開所により、自治体シンクタンク機能の向上・実践経験を通じた人材の育成や、町外の企業や大学との協力と地場企業との連携により、若人が街に居る状況をつくりだしている。

### ☆視察を通しての感想

具体的な計画を持ち、一つの事に特化して事業を継続し、やり遂げるのだという信念と気概があれば成し遂げる事ができるといふことを痛感した。



▲オープンガーデン (小布施町)

西川町における観光行政は交流人口100万人を目指しつつも、なかなか進まない現状にある。まちづくりの手法を探る一つの切り口として参考になった。

### 予防は治療にまさる 「びんころ運動」の推進

## 佐久市の概要

・平成17年に4市町村が合併  
・人口10万200人  
・世帯数3万9千674世帯  
・面積 423.99km<sup>2</sup>  
・産業 米、ブルーベリー、高原野菜、花き栽培など、第2次、第3次産業

## 視察内容

### 「佐久市健康づくり運動」

◆健康に過ごす高齢者が多く、高齢者の医療費が低い。就労率が高く、自家農園などで生きがいを持って生活している人が多いことや、冷涼で晴天率が高く過ごしやすい気候であることなどが理由と考えられる。

◆生活習慣病予防と健康増進を目的に、食生活のあり方などを推奨する「びんころ運動推進事業」を実施している。

◆「未来に続く世界最高健康都市の構築」をめざし、「予防は治療に勝る」をスローガンとして、平均寿命の高さトップクラスを守っている。

### ☆視察を通しての感想

佐久市は、総合病院が6箇所、一般診療所が77箇所ある大きな市であり、西川町とは比べようもないが、いろいろな運動を地道に継続して行なっていることは見習うべきと感じた。

西川町でも、保健行政に關しては先進地であるが、今後の一考になればと思った。

### 名物女将がつくるおもてなし 農家民宿「おおた」

農林水産省6次産業化の取組事例集で紹介された、農家民宿「おおた」に体験宿泊した。



▶びんころ地蔵 (佐久市)

## 視察内容

飯田市には全体で400軒の農家民宿があり、年間7千人を受け入れている。農家民宿「おおた」は、標高600〜700mの山間地帯に存在する農家民宿のリーダー的存在となっている。

◆食事は地産地消で切り盛りし、心の癒しを求めて訪れるリピーターも数多いという。何の変哲もない山間

景観に寄せる思いを  
花のあるまちづくりで  
見事に開花



▶名物女将さんと

## ◆総務厚生常任委員会◆

### 1. 育英奨学資金貸与事業

【事業概要】 経済的理由で進学する費用の支出が困難と認められる者に、進学に必要な資金を貸与し、将来の人材を育成するもの

議会の評価	3	貸与金額、貸与回数、町への定住策といった面からも検討する必要がある。
町の評価	1	保護者、町民から事業継続の要望があり継続すべき事業だ。町内定住、就業支援については別途検討事項だ。

### 2. 町立図書館改修事業

【事業概要】 小学校図書館の一般開放に伴い、特徴ある町立図書館として機能を充実する整備を行うことで、町民へのサービス向上を図るため「生涯学習サロン」と「山菜学情報室」の機能を付加する事業

議会の評価	3	「山菜学」ということがまだまだ町民に認知されていないと思われる。町の特色を活かした施設にするには、整備が足りない。展示内容等がマンネリ化しないように工夫が必要だ。
町の評価	3	施設内容の充実と利用者の利便性を図っていく必要がある。

### 3. 温泉利用助成事業

【事業概要】 後期高齢者医療被保険者に温泉入浴の機会を提供して、高齢者の健康増進を図り、合わせて医療費の抑制を図る

議会の評価	3	高齢化が進む中においてこの事業は有効であり、今後も継続すべきであるが、更に効果ある健康増進事業とするためには、1人あたりの利用回数を増やす手立てや年間を通して利用できる体制づくり、送迎の対応などの環境整備を検討すべきだ。
町の評価	3	高齢者が温泉を利用した健康づくりを実践できるように、「健康づくり指導」や「健康講座」等を実施し、事業内容の充実を図る必要がある。

## 議会の動き

<p>視察受け入れ 11月15日 河北町 10月21日 福島県高田町</p>	<p>広報公聴常任委員会 12月5日 議会だよりレイアウト会議 12月12日 議会だより編集会議 12月20日 議会だより第1回校正 12月27日 議会だより第2回校正 12月28日 議会だよりアドバイザー指導 12月30日 議会だより第3回校正</p>	<p>産業建設常任委員会 12月11日 第6次総合計画の検討 12月18日 第6次総合計画の検討 12月27日 総務調査「今年度の除雪計画」行政評価 12月31日 総務調査「今年度の除雪計画」行政評価 12月31日 総務調査「今年度の除雪計画」行政評価</p>	<p>総務厚生常任委員会 12月10日 事務調査「健康づくり施策の展開」第6次総合計画の検討 12月17日 第6次総合計画の検討 12月24日 第6次総合計画の検討 12月31日 総務調査「今年度の除雪計画」行政評価 12月31日 総務調査「今年度の除雪計画」行政評価</p>	<p>議会運営委員会 12月16日 行政評価の実施計画 12月23日 第5回臨時会の運営 12月30日 第4回定例会の運営 12月31日 一般質問に対する対応</p>	<p>議会全員協議会 12月18日 条件付一般競争入札の試行 12月25日 第6次総合計画の検討 12月26日 第6次総合計画の検討 12月27日 予算編成方針・総合計画質疑 12月28日 第6次総合計画の策定等 12月29日 議会の運営・行政評価</p>
--	---	--	--	---	--

## 6項目を選択

# 行政評価



平成24年度に実施された事業の中から、総務厚生・産業建設常任委員会で、それぞれ3事業を選択し、行政評価を行いました。評価の結果は、議会全員協議会で協議し、議会の総意として「行政評価報告書」をとりまとめ、12月25日に町長に提出しました。評価内容を説明するとともに話し合いを行い、それぞれの事業の成果や問題・課題の共通認識を図りました。町に対しても自己評価を依頼したので、町の評価点数も合わせて掲載します。

評価基準	1	現状のまま維持する
	2	拡充する
	3	改善し継続する
	4	見直しのうえ縮小する
	5	期間設定し終了する
	6	廃止する

## ◆産業建設常任委員会◆

### 1. 住宅建築支援事業

【事業概要】 住宅の新築や増改築、リフォームなどを、町内の業者と契約して行なった工事を対象に補助金を支給する

議会の評価	3	利用者と業者の両方に有効な事業であると評価する。この事業に該当することが分からずに、申請をしないという事例もあったことから、今後さらに周知徹底を図り、申請もれがないように注意して事業の継続をすべき。
町の評価	1	町民の快適な住環境の改善に貢献している。また、町内の業者の活性化にも貢献しており、事業効果が高い。

### 2. 山菜きのこ等団地形成事業・山菜きのこ出荷販売促進事業

【事業概要】 山菜きのこ等団地形成事業  
団体による山菜きのこ栽培に対して、経費の1/2を助成する  
山菜きのこ出荷販売促進事業  
生産農家と関係団体で構成する協議会が山菜きのこの集荷を行い、流通量の増加を図る

議会の評価	3	たいへん期待されている事業ではあるが、生産拡大の取組みが弱く、だれもが認識できるような「団地」はできていない。また、生産量が少ないので集荷の実績も上がっていない。生産量の拡大に向けた抜本的な見直しが必要と思われる。
町の評価		2事業の総合的な評価はしていないが、山菜きのこ等団地形成事業の評価は2、山菜きのこ出荷販売促進事業の評価は3

### 3. 西川四季まつり（秋のイベント）

【事業概要】 西川フェア、モウモウまつり、菊まつり、本道寺釣り道場渓流釣り大会、にしかわ秋まつり、大井沢きのこまつりの個別に開催されている6事業を「西川四季まつり（秋のイベント）」として位置づけている

議会の評価	3	秋にふさわしいものを選択し、メインとなる事業を実施し、秋のイベントとして一貫性のあるまつりにする必要がある。菊まつりは、菊花の展示だけでなく、町の花である「菊」を町民みんなで育て、楽しむことができるようにするなど、根本的な見直しが必要だ。また、地域が主体的に実施しているイベントは地域に任せることも大事だ。
町の評価		6事業の総合的な評価はしていないが6事業とも評価は1



『若い人』シリーズ 6

# GENの活動



代表 和賀 光 さん (間 沢)

GENは同級生が集まってスタートした会です。発足から4年目を迎え、年々年齢層も広がり、会員数は21人に増えました。

元気でパワフルな若者の姿を町民の方々に知ってもらい、町の活性化に繋げていければという思いで、『おらほの町一日満喫ツアー』や『若者交流イベント』、『西川夏の陣2013』などを開催しています。

昨年の西川夏の陣は、直前に豪雨災害があり、中止も考えましたが、「こんな時こそ西川町に元気を与えよう!」と開催しました。当日は天候にも恵まれ、若者同士の交流を深めました。

参加者から「西川町は何もない所だと思っていたが、月山湖でのカヌーや大井沢での工芸体験ができて飽きることなく一日を過ごせた」「こんなに楽しめる場所があるのは魅力的だ」といった感想をいただきました。活動を続けていく中で、仕事、結婚、出産など変化が多い20代の人たちが集まることの大変さと、イベントの参加者を募る事の大変さ



▲ おらほの町にしかわ一日満喫ツアー

を感じていますが、これからも、自分たちが楽しむことを忘れず、常に新鮮な気持ちで取り組んでいこうと思っています。

3月には、交流イベント第二弾として『西川冬の陣』を開催する予定です。多くの若者と、冬の西川町を満喫しながら交流を深めたいと思っています。

一緒に西川町で遊びましょう！

息の長い活動を続けていくためにも、組織の土台を固める時期、さまざまな企画に挑戦していこうと考えています。GENを応援してください！

## 編集後記

### 〔研修報告〕

新年あけましておめでとうございます。

広報公聴常任委員会では、昨年の11月14日、15日の日程で、「議会だより編集」について全国で高い評価を得ている岩手県岩泉町と金ケ崎町の両議会に出向き研修を行いました。

岩泉町議会では、住民に「読みやすく・わかりやすく・そして親しまれる議会広報」を目指しており、広報の発行に関する条例や規程も整備され、議会だより発行に大変熱心な対応を行なっていました。

金ケ崎町議会では、「ありのままに解りやすく」「議員の力で」「スピード発行」の3つをモットーとして編集をしています。議会だよりははやもする」と町政批判に陥りやすい傾向が

あります。編集留意として「町の広報も議会広報も、共にいいまちづくりのためにあるもの。町政批判紙に終わらないように」を心がけていることが印象に残りました。

町民の皆さまに、分かりやすく議会活動が伝わる広報誌となるよう今年も精進いたします。

(横山 修)



▲ 金ケ崎町議会での研修

### 議会へのおさそい

皆さん傍聴してみませんか

インターネットでもご覧いただけます

次回定例会は  
3月です

《発行・編集責任者》  
議長 井場 榮治

《編集委員》  
委員長 横山 修  
副委員長 佐藤 耕一  
委員 伊藤 哲治  
委員 佐藤 幸吉

● 感想の寄せぐわい。